

二〇二〇年一月二十八日

ミツカン水の文化センター

オンラインセミナー 資料集

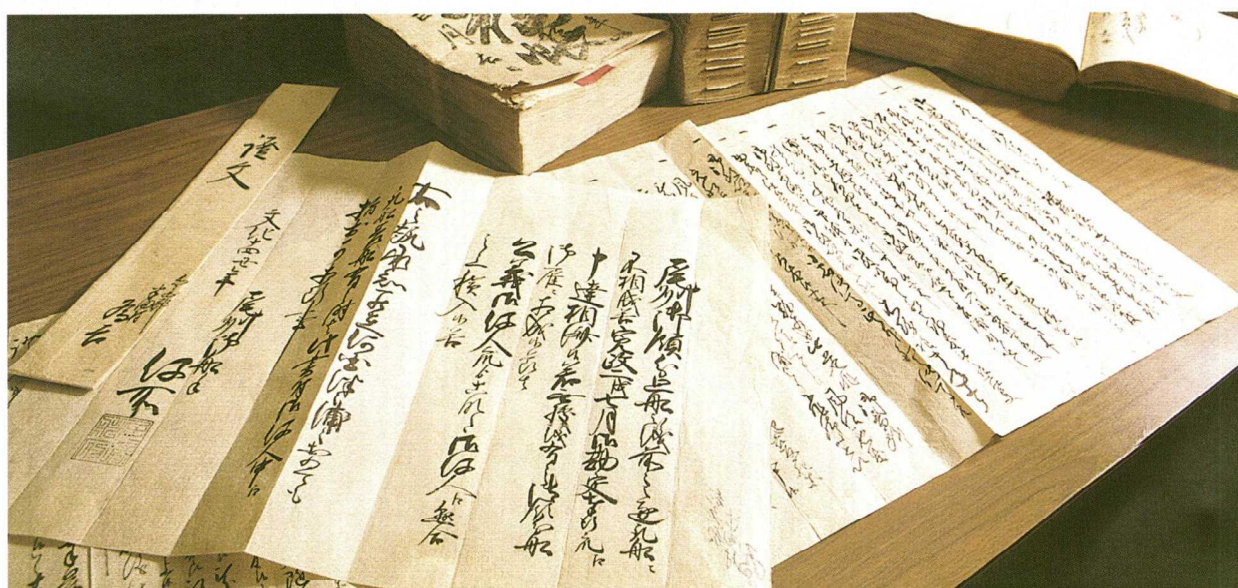
江戸東京への舟運

古文書でたどる酢の軌跡

一般財団法人 招鶴亭文庫の史料より

講師 斎藤善之

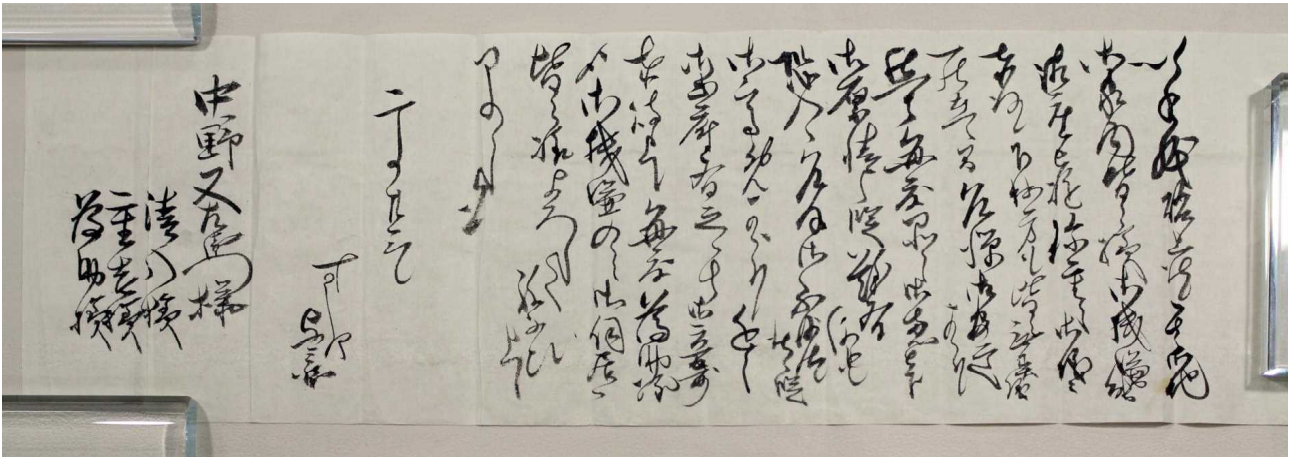
(東北学院大学経営学部教授)



(『招鶴亭文庫 中榎家文書にみる酢作りの歴史と文化』より)

目次

1	史料 1 (招鶴亭文庫所蔵・中埜家文書より 年不詳・書状)	∴	p 1
2	史料 2 (中埜家文書 No. 18 91 1 1 明治八年三月二十七日・書状)	∴	p 2 ∖ 6
3	史料 3 (中埜家文書 No. 98 1 13 徳久丸帆船図、西洋式帆船、中埜酢店)	∴	p 7 ∖ 8
4	史料 4 (中埜家文書 No. 16 2 37 大正十二年十月三十一日・はがき)	∴	p 9
5	史料 5 (中埜家文書 No. 16 12 4 大正十二年九月二日・はがき)	∴	p 10
6	史料 6 (中埜家文書 No. 16 2 53 大正十二年十月二十七日・絵はがき)	∴	p 11
7	史料 7 (中埜家文書 No. 16 2 36 大正十二年十月五日・はがき)	∴	p 12
8	史料 8 (中埜家文書 No. 16 2 30 大正十二年十月十四日・はがき)	∴	p 13
9	史料 9 (中埜家文書 No. 16 2 38 大正十二年十一月二十日・はがき)	∴	p 14
10	史料 10 (中埜家文書 No. 16 2 21 大正十二年十月二十日・はがき)	∴	p 15
11	世紀における北前船・尾州廻船(内海船)・奥筋廻船の航海圏(地図)	∴	p 16 ∖ 17



史料1 ミツカンミュージアム展示史料(複製)

招鶴亭文庫所蔵・中楚家文書より

年不詳・書状(江戸・すしや与兵衛→中野又左衛門ほか)

翻刻

以手紙啓上仕候、其御地御家内皆々様、御機嫌能御座被遊、珍重之御儀と奉存候、下拙方も皆々無異儀、罷在候間、乍憚御安意可被下候、然者毎度品々御恵被下御厚情之段難有、何トも恐入候、乍存御不沙汰仕候段、御高免可被下候、近々御出府有之候者御立寄奉待上候、毎度為助様方御機嫌のミ御伺居候、皆々様よろしくねかひ上候早々以上

二月廿三日

すしや
与兵衛

中野又左衛門様
清八様
重吉様
為助様

現代語訳

手紙を以て啓上いたします。そちらの御家内の皆々様は、ごきげんよくおすごしで、めでたいことと存じあげます。当方も皆々かわりなく、すごしておりますので、憚りながらご安心ください。

さてまいど品々を御恵み(お送り)下され、御厚情の段ありがたく、なんとも恐れ入ります。それを存じながら御不沙汰しておりますこと、お許しください。近いうちに御出府(上京)されることがありましたら御立ち寄りをお待ち申しあげます。まいど

為助様からは(そちらの)御機嫌の(ご様子)のみはお伺いして居ります。皆々様にはよろしくお願ひ申し上げます。早々以上

二月二十三日

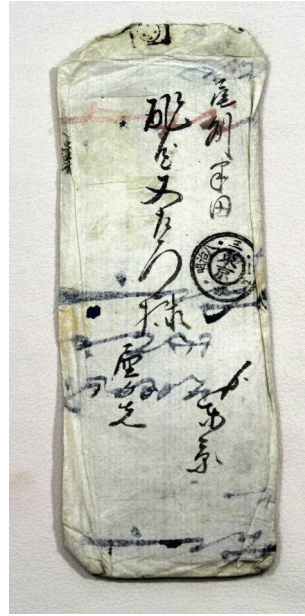
すしや
与兵衛

中野又左衛門様
清八様
重吉様
為助様

史料2

中禁家文書 No.18-9-1-1

明治八年三月二十七日・書状（東京靈岸島
富島町一丁目・中井半三郎商店←尾州半田
・酢屋又左衛門）



翻刻

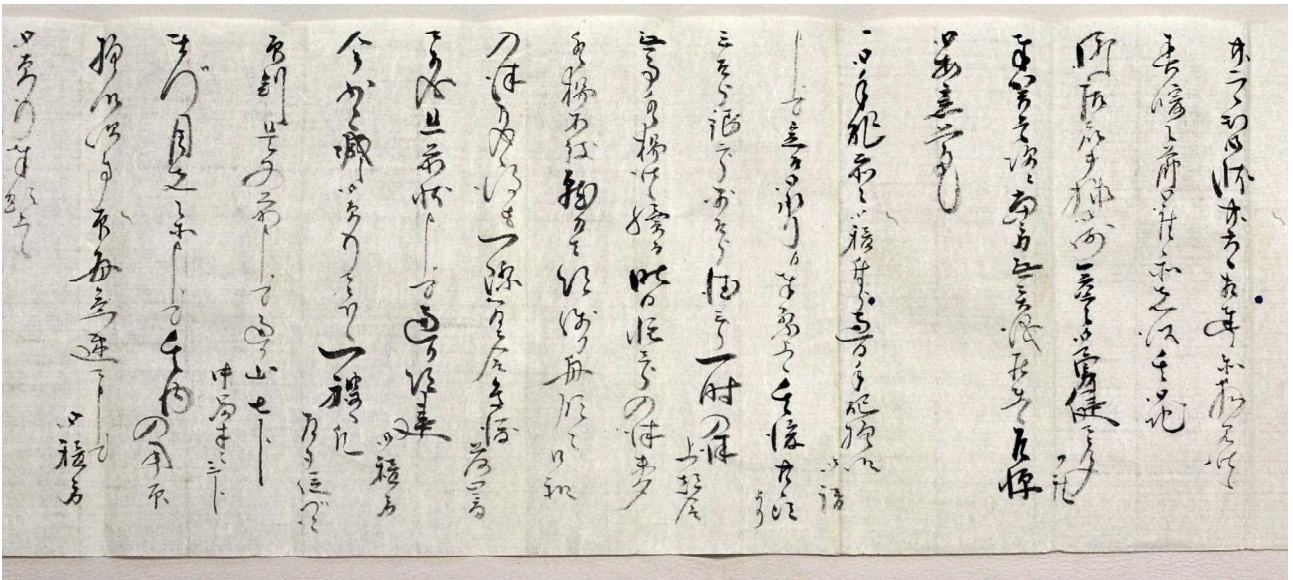
（封筒表書）

尾州半田
方
東京
酢屋又左衛門様
届ヶ先

（消印 東京／明治八・三・二七・〇）

（封筒裏書）

三月廿七日午後
灵巖嶋富嶋町老丁目
中井半三郎 ㊤



翻刻

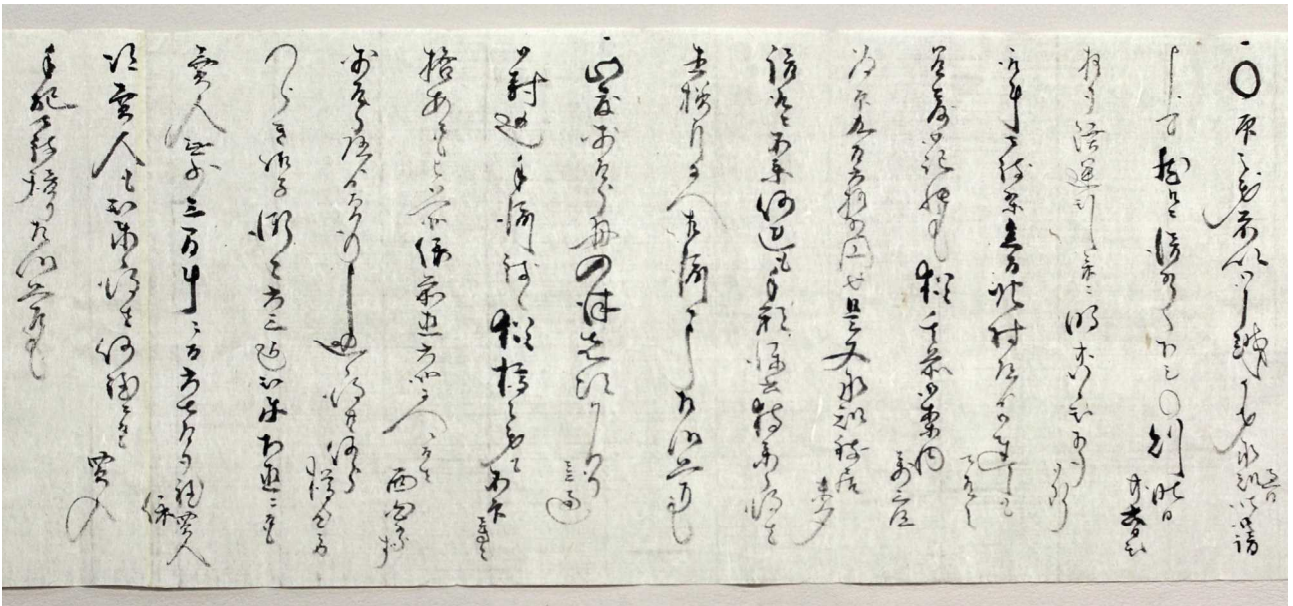
廿二日出御状、廿六日相達候、忝拝見仕候、春暖之節御座候所、先以其御地御店衆中様御揃、愈々御勇健可被為入御座奉賀上候、次ニ当方無異儀罷在候、乍憚御安意思召可被下候

一御手酢、前々御積付分、過日手配模様御請申上候、定而御承引と奉察上候、其後廿日頃より三太郎・銀二郎・平太郎・徳三郎一時入津、上都合無事水揚仕候、續而昨日悦三郎入津、未夕水揚不致、就而者跡残り舟、段々日和入津相成候得者一隙間ニ合、鳥渡荷嵩可相成、且前状申上候通り跡建御積方今少々減し御欠引可被下候、一艘へ凡百夕位づ、印割是又前申上候通り、山七分、中富半々三分まづ目先之所申上候、其内入用印模様次第印毎急速可申上候、御積方御欠引奉願上候

現代語訳

二十二日に出された御状（あなたの手紙）は、二十六日に到着し、忝なく拝見いたしました。春暖の節でございますが、まず以つてその御地（そちらの）御店の衆中様お揃いで、愈々御勇健でいらつしやること、およろこび申しあげます。次に当方も変わりありませんので、憚りながらご安心に申し召しください。

一御手酢は、前々に（船に）積み付けた分は過日、手配の模様（状況）をお請け（確認）申し上げました。おそらく了解されたと拝察申し上げます。その後二十日頃より、三太郎・銀二郎・平太郎・徳三郎と（各船頭の船が）一時に入津（入港）し都合よく無事（積荷の酢を）水揚げしました。続いて昨日は悦三郎（の船）が入津し、（こちらは）まだ水揚していません。ついてはこの後、残りの船もだんだんの日和で入津になりました。ですから、まずは間に合い、ちよつと荷嵩（供給過多）にもなりません。そこで前状で申し上げた通り、これから後に仕建てる（船の）積み方は今少し減らし方も欠引（駆け引き）熟慮検討して下さいませ。（船一艘につき）およそ百駄くらいづつ（が適当でしょうか）。印割り（銘柄別）はこれまで申し上げました通り、山吹を七割、中楚と富貴を半々と三分と、まずは目先（直近）のところを申し上げます。

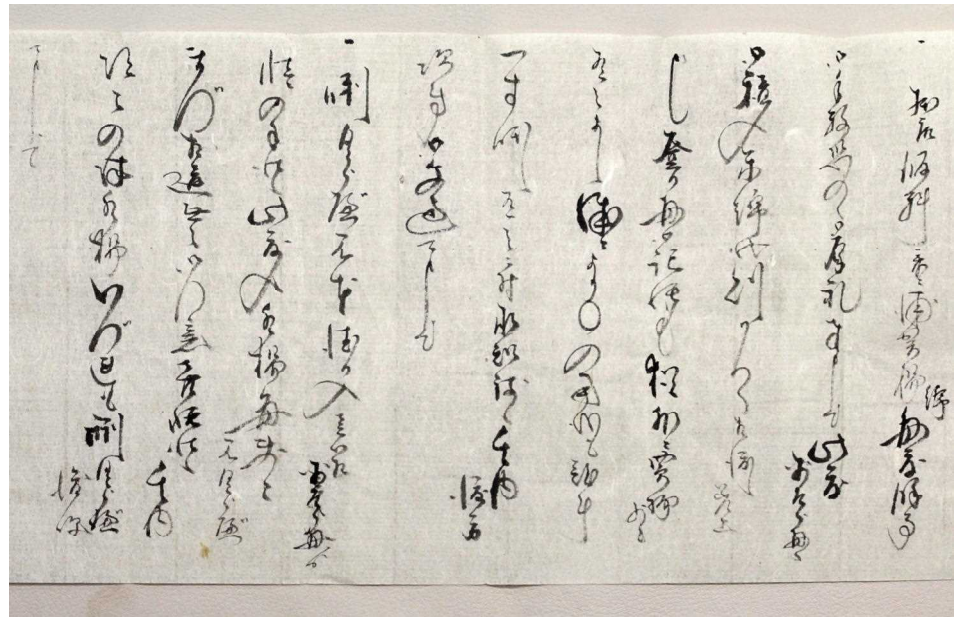


翻刻

一〇印之義、前以御申越しイ才承知仕、過日御請申上候、然ルニ清水へ下シ〇則昨日廿六日出拾夕續運出候并ニ明廿八日出五夕御断り取斗可致条、定而北村屋方御達しも可有之、宜敷御記帳可被下候、猶其前御案内萬三殿如何印九百六拾五円也、是又承知致居、未タ請取ニ不参、何れも手形濟書持参候得者直様御同人相渡可申候、左様思召可被下候一此度、平太郎舟入津、先頃同人行老通御封込手渡し致候、猶樽之義も不印旁々格安ニも被思候、併前直六式かへニ而者西国ならず平太郎殿方欠引申込候得共、何分樽屋ニ而つらき様子、漸々六三迄出来、下直ニ而も賣人無少、三間斗ニ而六七百夕程買人、併跡賣人も出来候得者、何程ニ而も買入手配可致積り左様思召可被下候

現代語訳

一〇印のことは前もってお申し（のこと）委細承知いたし、過日御請（確認）申し上げました。
 （〇印とは現金をいう。一種の隠語）
 *（この条は中井商店はじめ関係取引先との資金等の差配勘定について記したものであり略す。）
 一この度、平太郎舟が入津し、先頃の同人行きの一通の御封じ込み（封入物）は（同人に）手渡し致しました。なお樽のことは不印（不調）で脇々では格安に思われて、しかしながら前の値段の六二替え（のレート）にては、西国ならず平太郎殿より欠引きを申込みましたが、なにぶん樽屋にて辛き様子で、ようやく六三（替え）まで出来て値下げにても売り人はほとんど無く、三間斗にて六七百駄ほど買人（があり）、しかしながら後には売人も出来ませれば、何程にても買入れ手配を致す積りです。さよう思召し下さい。



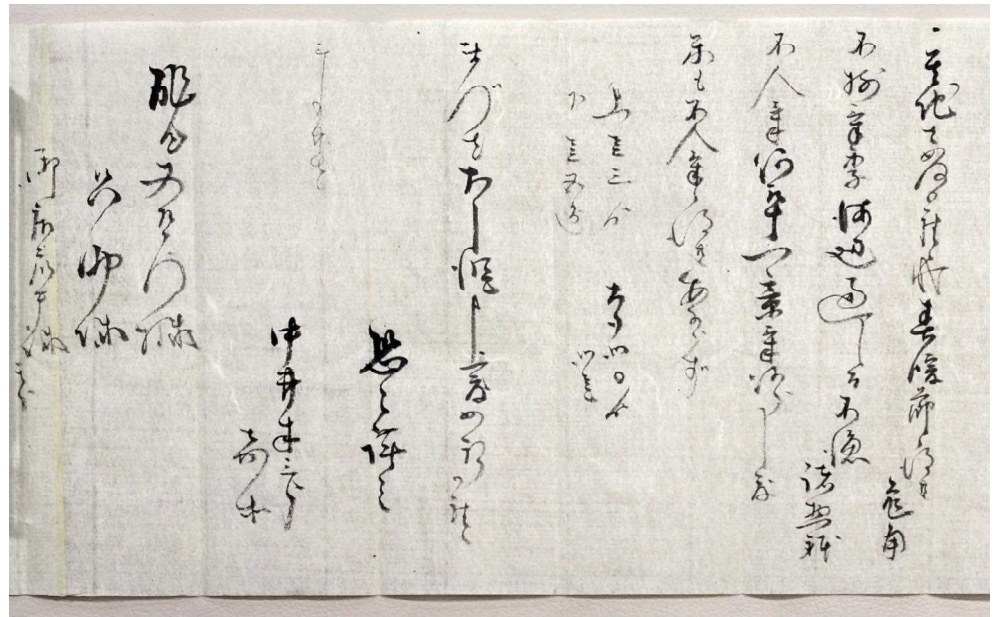
翻刻

一 拙店飯料并ニ浦賀揚、^綿毎度餘事
 御手数恐入候御厚礼奉申上候、此度平太郎舟へ
 御積入米綿代、則同人へ相渡し差上
 申候、登り舟御記帳可被下候、猶外ニ買物少々
 有之よし、殊ニより〇入用哉も難斗、
 一寸咄し有之ニ付、承知致候、其内渡方
 次第御文通可申上候
 一 唼くらべ見本、徳り入老箱、平太郎舟方
 慥ニ入手仕候、此度入水揚舟、夫々見くらべ
 まづ相違無之、御人愈喜悅仕候、其内
 次々入津水揚、いづれも唼くらべ後便
 可申上候

現代語訳

一 拙店（中井店）の飯料（飯米）ならびに浦賀揚
 げの綿、毎度よけいな御手数恐れ入ります。
 厚くお礼を申し上げます。この度、平太郎の舟へ
 御積み入れの米と綿の代金は、すぐに同人へ相
 渡し差し上げ申しあげます。登り舟（戻り船の
 ところに）御記帳ください。なお外にも買物が
 少々有るとのこと、ことによっては〇（現金）
 が入用かもしれないと一寸（すこし）お咄しが
 有りましたので承知致しました。そのうち渡し
 方次第で御文通（お知らせ）申し上げます。
 一 唼くらべ見本徳利入
 りの一箱は、平太郎舟から慥かに入手しました。
 この度入って水揚した舟（ことに）それぞれ見
 較べ、まずは相違これなく、御人愈々喜悅いた
 しました。そのうち次々に入津水揚し（ました
 ら）いづれも唼較べて、後便で申し上げます。

（唼くらべ見本＝味較べ商品サンプルか）



翻刻

一貴地者如何御座候哉、春暖節候得共、兎角

不揃気季、海辺通し而不漁、諸惣躰

不人氣、何卒一景気あらし度

米も不人氣候得共安からず

上 壹三方 大ツ 貳〇方

下 壹五迄 貳壺

まづ者右之段申上度、如斯御座候

恐々謹言

三月廿七日

中井半三郎

嘉兵衛

醉屋又左衛門様

只助様

御店衆中様

貴下

現代語訳

一貴地（そちら）はいかがでございますか。春暖の節ですが、とかく不揃の気季（天候）で、海辺は通して不漁、諸々全体に不人氣（低迷）、何とぞ一景気あらし度く（あつてほしく存じます）。米も不人氣ですが安くありません。

上（米） 一三より 大豆 二〇より

下（米） 一五まで 二一

先ずは右の段を申し上げたく、斯の如くでございます。恐々謹言

三月二十七日

中井半三郎

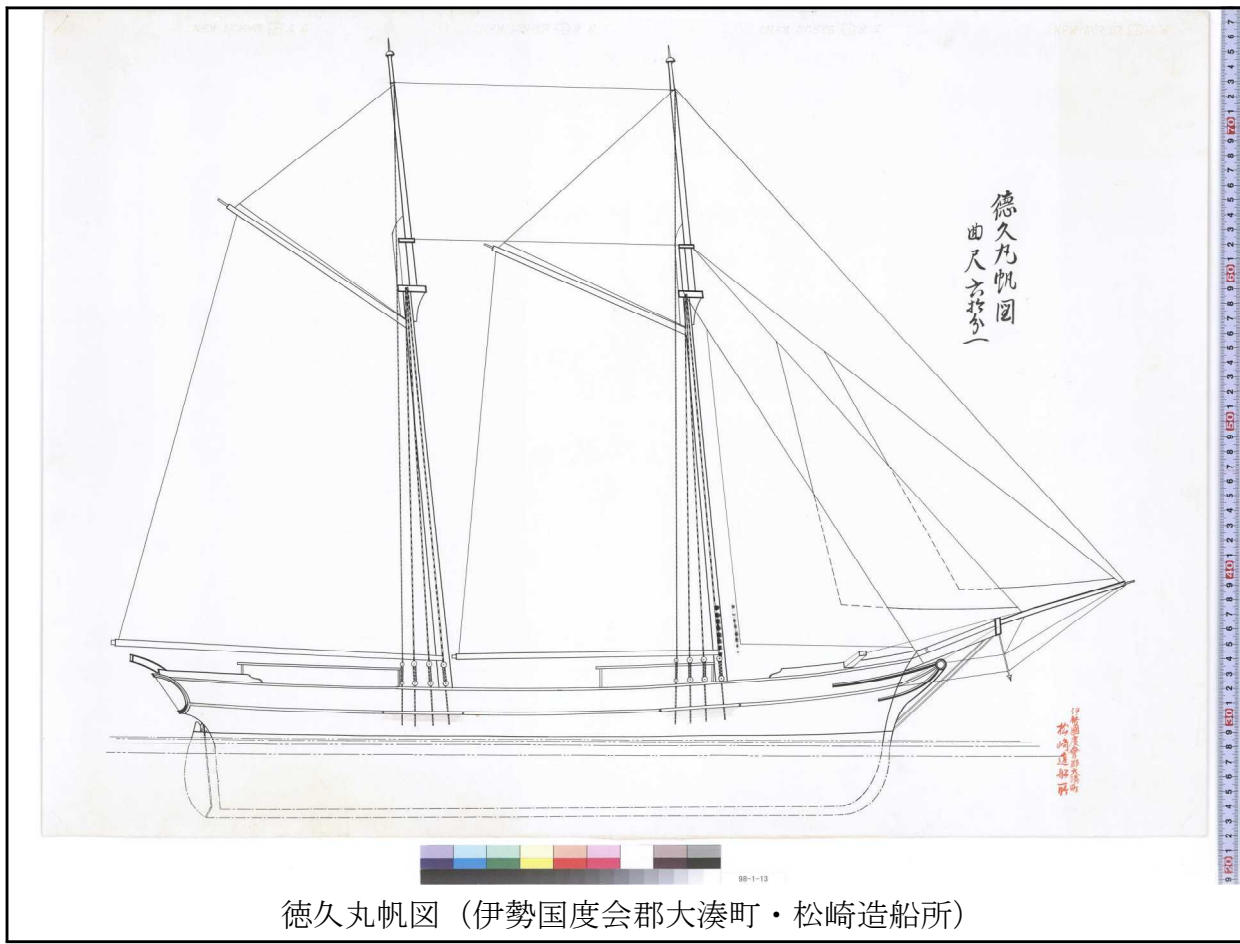
嘉兵衛

醉屋又左衛門様

只助様

御店衆中様

貴下



徳久丸帆図（伊勢国度会郡大湊町・松崎造船所）

徳久丸諸元
(上の図面より計算値)
全長：32.1m
船底長：25.8m
船体高：4.8m
檣高：25.8m

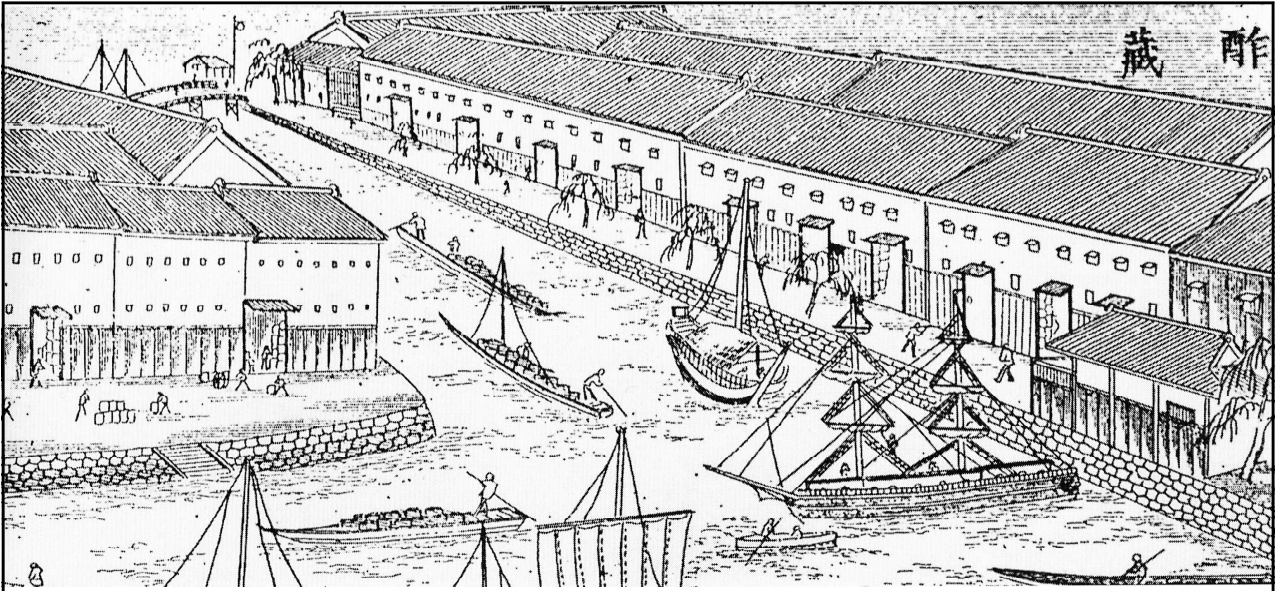


大湊で建造中の西洋式帆船

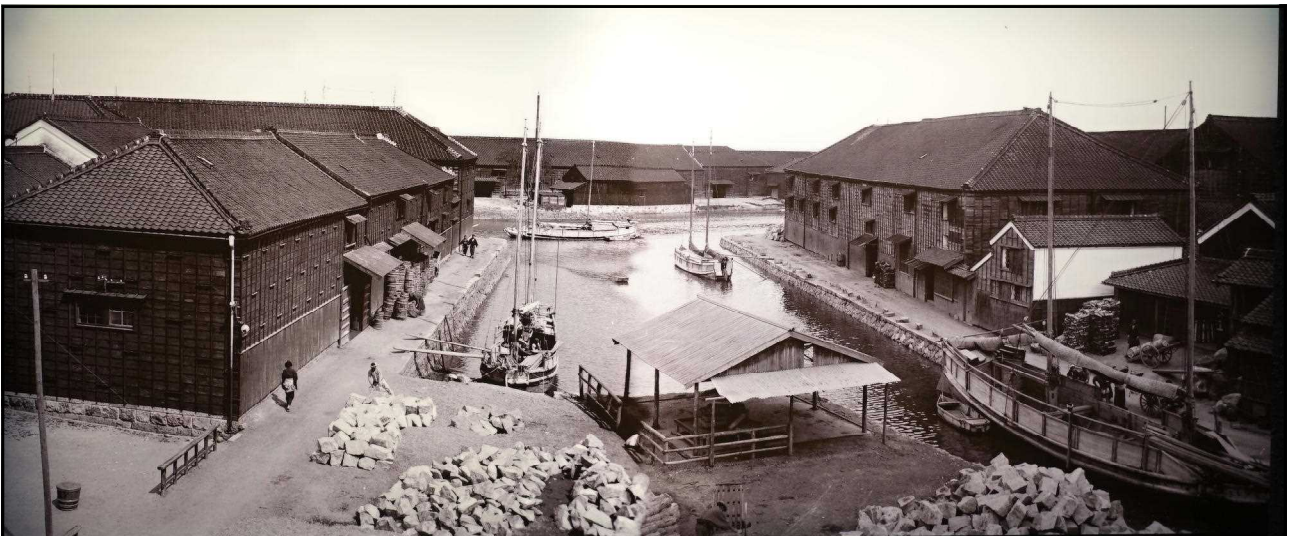


伊勢大湊市川造船所船所

伊勢大湊の市川造船所で建造された松阪丸
初めて建造された西洋式帆船（明治20年頃）

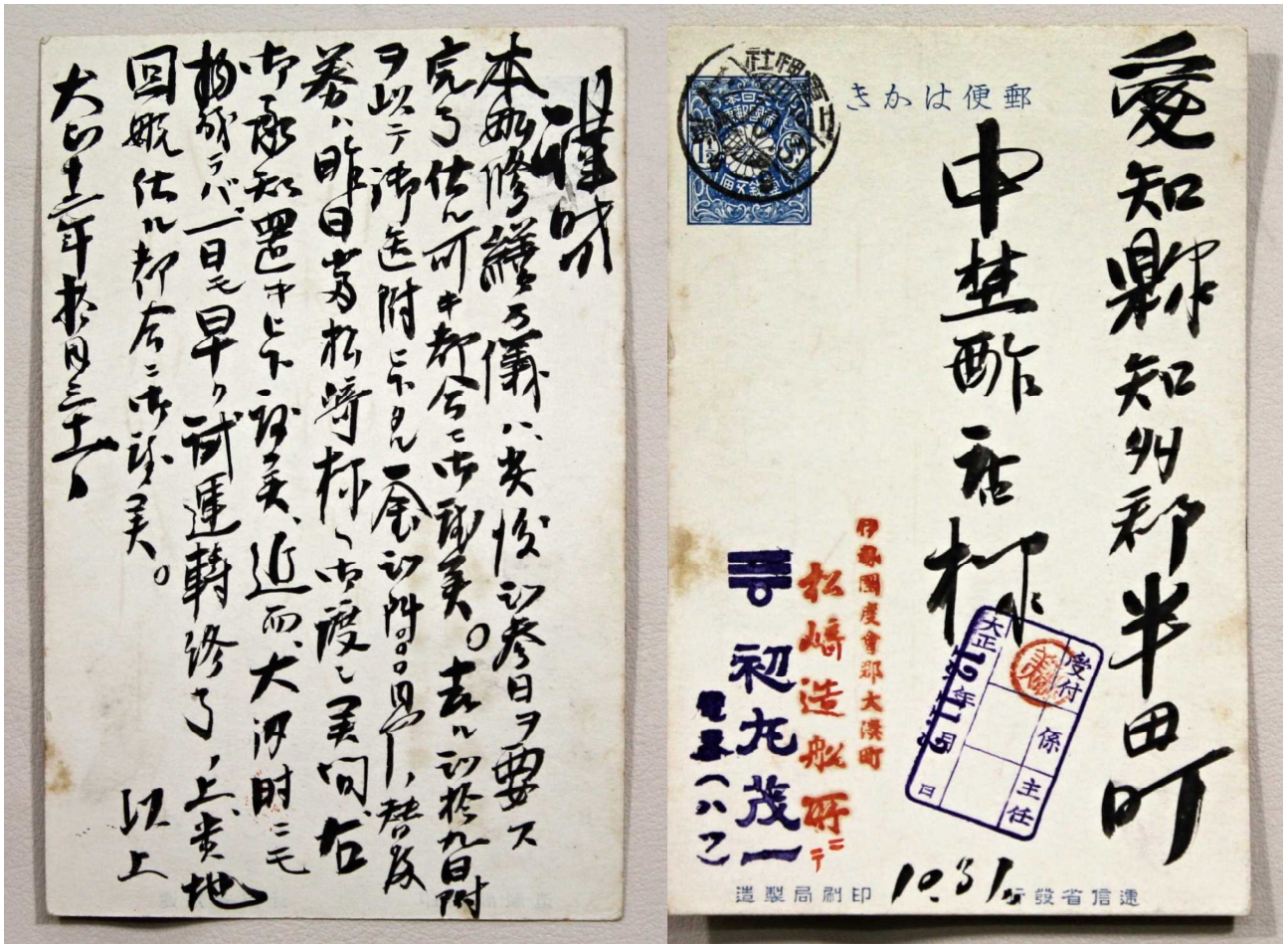


中壱酢店前の半田運河に停泊する洋式帆船（『尾陽商工便覧』より転載）
（『MATAZAEMON 七人の又左衛門改訂版』 ㈱ミツカングループ本社 2004）



中壱酢店 本蔵・東蔵・南蔵（大正頃 招鶴亭文庫 二階和紙文庫が文庫）
嵐のまちと呼ばれる半田の地で、ミツカンの前づくりもその風景とともにあった。左の建物が本蔵で、現在のMIMの位置にあたる。

中壱酢店 本蔵・東蔵・南蔵（大正頃 招鶴亭文庫 ミツカンミュージアム展示）



史料4

大正十二年十月三十一日・はがき（伊勢国度会郡大湊町・松崎造船所にて・初丸茂一↓愛知県半田町・中埜酢店）

中埜家文書No.16-2-37

愛知県知多郡半田町

受付印 大正12・11・2

中埜酢店様

伊勢国度会郡大湊町

松崎造船所ニテ

〈ミツカン〉初丸茂一

電署（ハツ）

謹啓

本船修繕乃儀ハ其後式参日ヲ要ス

完了仕ル可キ都合ニ御座候。去ル式拾九日附

ヲ以テ御送附被下タル一金式阡〇〇〇円也ノ替為

券ハ昨日当松崎様へ御渡シ候間、右

御承知置キ被下度候、追而大汐時ニモ

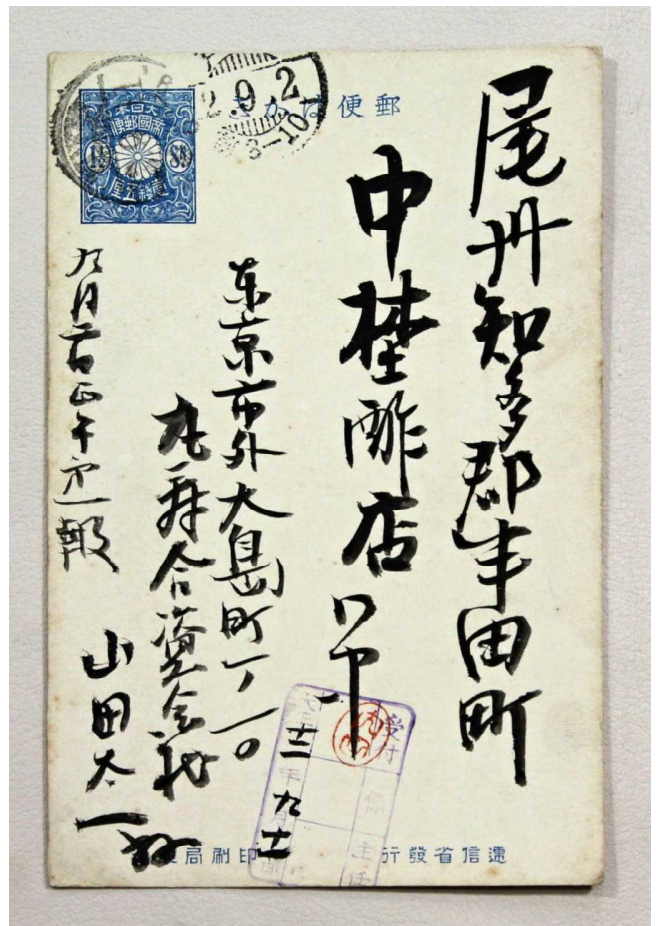
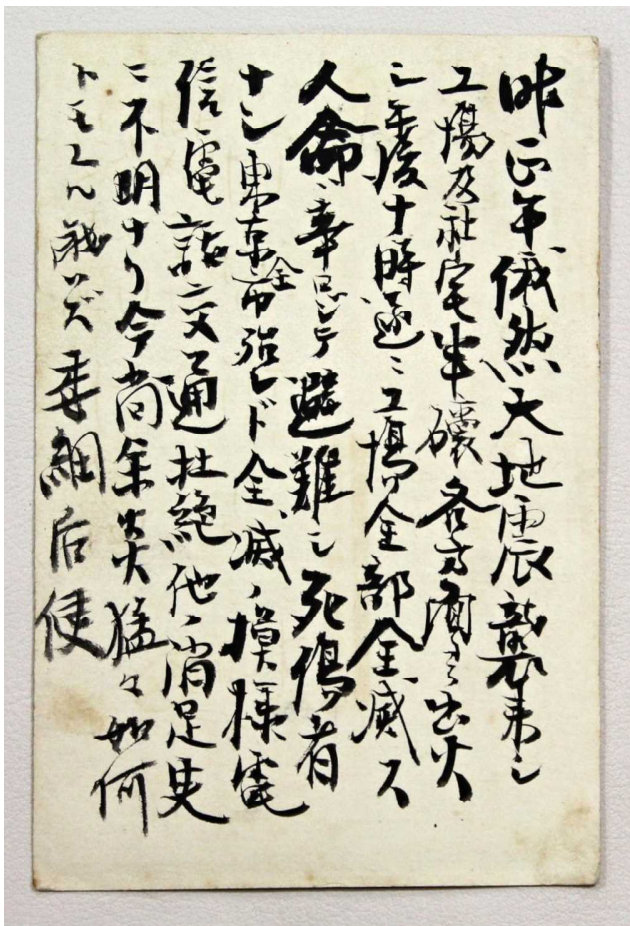
相成ラバ一日モ早ク試運轉終了ノ上、貴地

回航仕ル都合ニ御座候。

以上

大正十二年拾月三十一日

謹啓
本船修繕乃儀ハ其後式参日ヲ要ス
完了仕ル可キ都合ニ御座候。去ル式拾九日附
ヲ以テ御送附被下タル一金式阡〇〇〇円也ノ替為
券ハ昨日当松崎様へ御渡シ候間、右
御承知置キ被下度候、追而大汐時ニモ
相成ラバ一日モ早ク試運轉終了ノ上、貴地
回航仕ル都合ニ御座候。
以上
大正十二年拾月三十一日



史料5

大正十二年九月二日・はがき（東京市外大島町・丸寿合資会社→尾州半田町・中棗酢店）

中棗家文書No.16-12-4

尾州知多郡半田町

中棗酢店

御中

東京市外大島町一ノ一〇

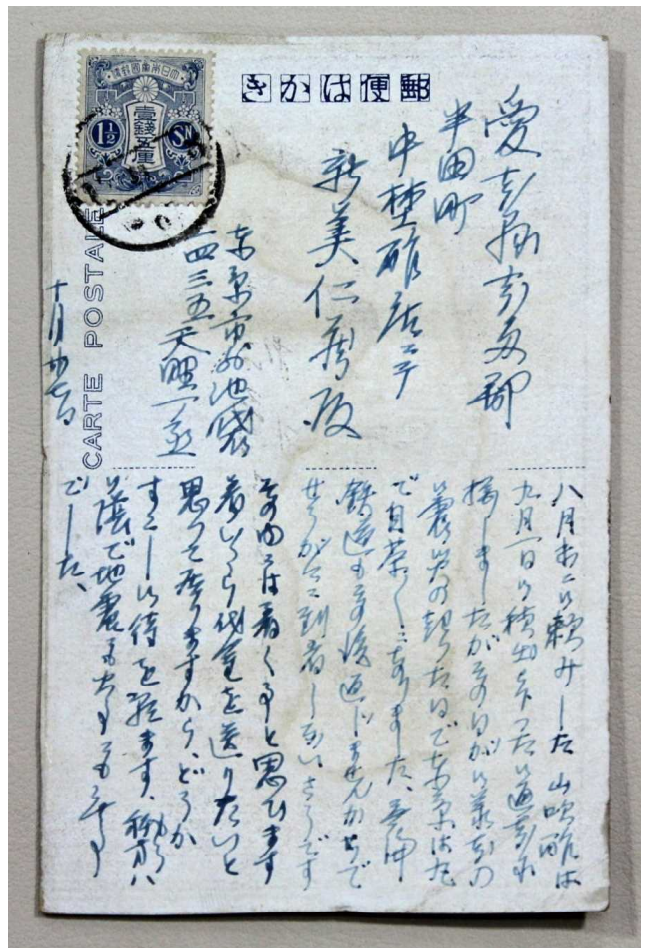
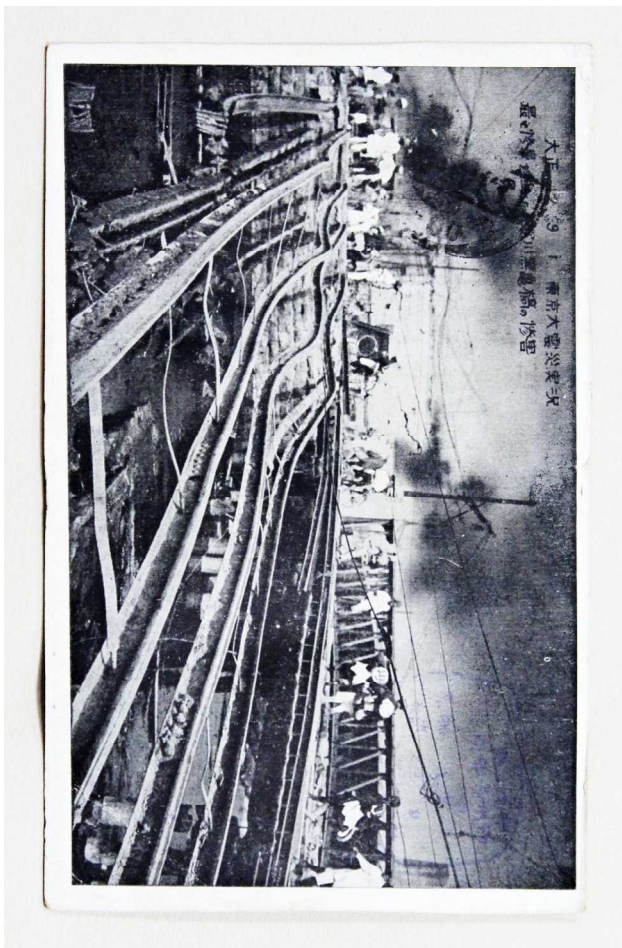
丸寿合資会社

山田太一拜

九月二日正午第一報

受付印 大正12.9.11

昨正午、俄然大地震襲来シ
 工場及社宅半壊、各方面ヨリ出火
 シ、午後十時、遂ニ工場全部全滅ス、
 人命ハ辛ロジテ避難シ、死傷者
 ナシ、東京（全）市殆ンド全滅ノ模様、電
 信電話交通途絶、他ノ消息更
 ニ不明ナリ、今尚余炎猛々、如何
 トモスル能ハズ、委細后便



史料6

大正十二年十月二十七日・絵はがき（東京市外池袋・天野一之丞↓愛知県半田町・中棗酢店にて新美仁蔵）

中棗家文書№16-2-53

愛知県知多郡
半田町

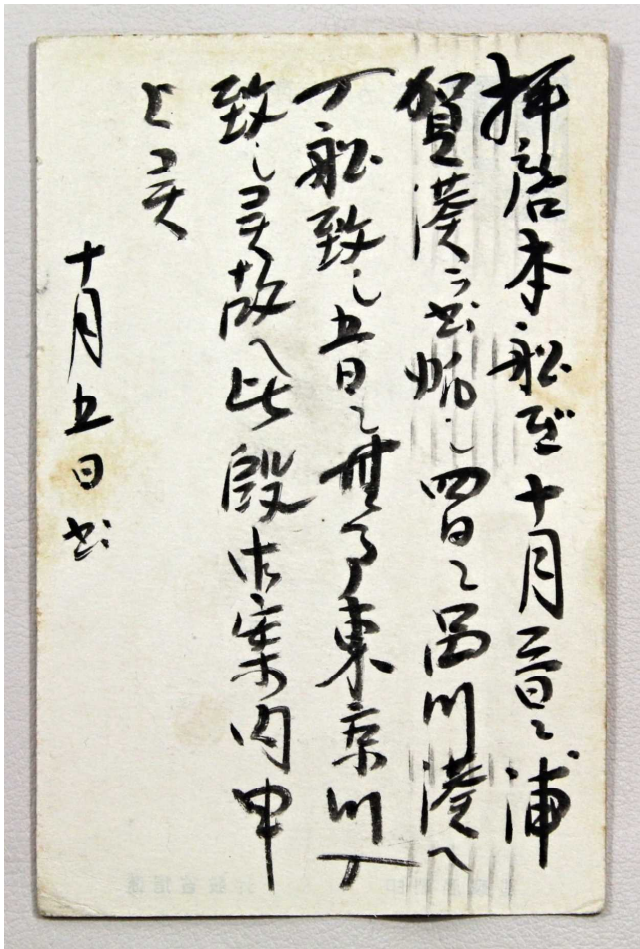
中棗酢店ニテ
新美仁蔵殿

東京市外池袋
一四三五 天野一之丞
十月廿七日

八月末ニ御頼みした山吹酢は九月一日御積出被下った御通知承諾しましたが、その日が御承知の震災の起った日で、東京は丸で目茶／＼になりました。無論鉄道も其後通じませんからせうが、今ニ到着しないさうです。その内ニは着く事と思ひます。着いたら代金を送りたいと思つて居りますから、どうかもうすこしお待を願います。私方ハ御蔭で地震ニも火事ニも無事でした

（裏面絵葉書 湾曲した線路）

大正12・9・1 東京大震災実況
最も惨害を呈せる深川黒亀橋の惨害



史料7

大正十二年十月五日・はがき（京橋区大川端町にて・徳久丸富次郎↓尾張国半田町・中埜酢店）

中埜家文書No.16-2-36

尾張國知多郡半田町

中埜酢店様

受付印 大正12・10・9

徳久丸富次郎

（仕切印文 東京市京橋区大川端町七番地 松崎商店）

拝啓、本船玉十月三日ニ浦

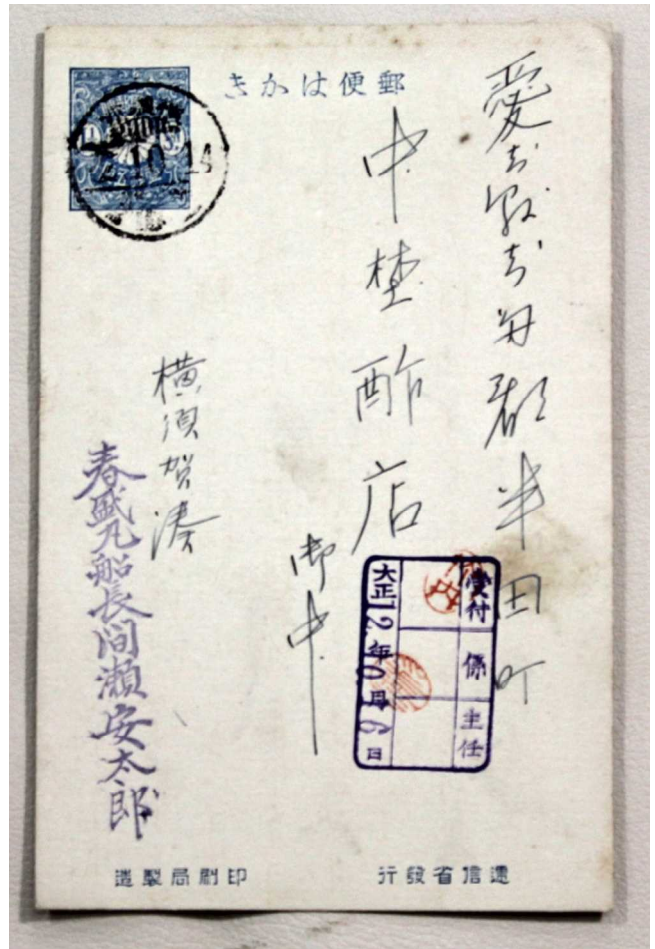
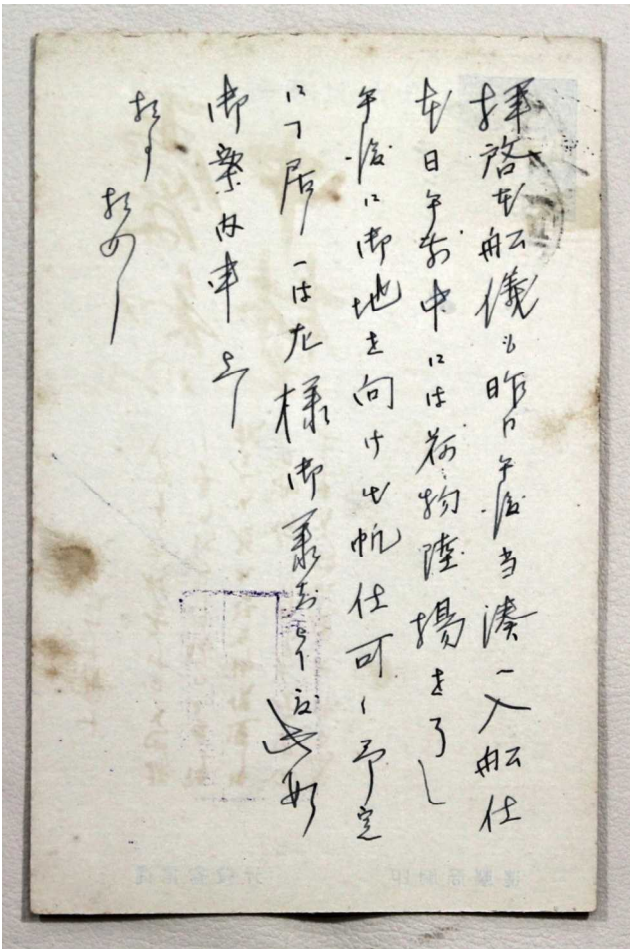
賀湊ヲ出帆し、四日ニ品川湊へ

入船致シ五日ニ無事東京川入

致シ候故へ此段御案内申

上候

十月五日出



史料8

大正十二年十月十四日・はがき（横須賀湊にて・春盛丸船長 間瀬安太郎 → 愛知縣知多郡半田町・中棗酢店）

中棗家文書 No.16-2-30

愛知縣知多郡半田町

受付印 大正12.10.6

中棗酢店

御中

横須賀湊

春盛丸船長 間瀬安太郎

拝啓、本船儀も昨日午後、当湊へ入船仕

本日午前中には荷物陸揚を了し、

午後には御地を向け出帆仕可く予定

にて居候へは左様御承知被下度、此段

御案内申上候

拾月拾四日

初丸も右通り也
 下度也
 二伸時節柄杓若位様ニ御身御大切被
 下度也
 居リ候へ共、右之次第故、何分御承知被
 下度也、先ハ不取敢ズ御一方申也
 実ニ困却也、尚又一日モ早く出帆急ギ
 当地ハ船下不足ニ付キ又先船共有候付キ
 拜啓 陳者下船儀、当川入津致シ候ヨリ

郵便はかき
 尾張知多郡半田町
 中埜酢店様
 拾月 式拾日
 康尔松竹方
 金剛丸政次郎
 大正十二年十一月二十日
 受付係主任
 尾張知多郡半田町
 郵便局
 印刷局製造

史料9

大正十二年十一月二十日・はがき（東京松竹方・金剛丸政次郎→尾張半田町・中埜酢店）

中埜家文書 No.16-2-38

尾張知多郡半田町

中埜酢店様

受付印 大正12.11.21

拾一月

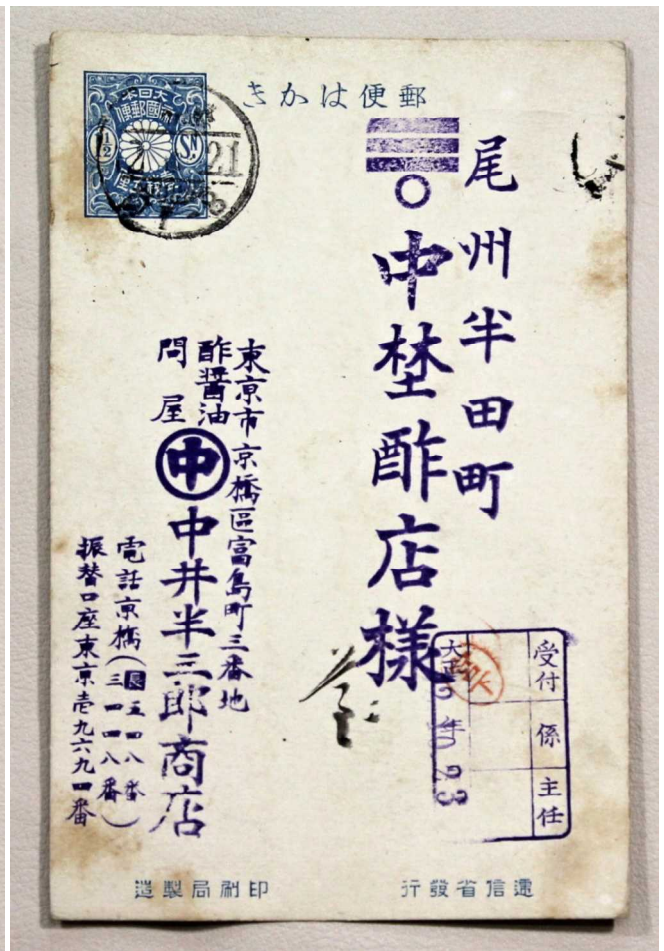
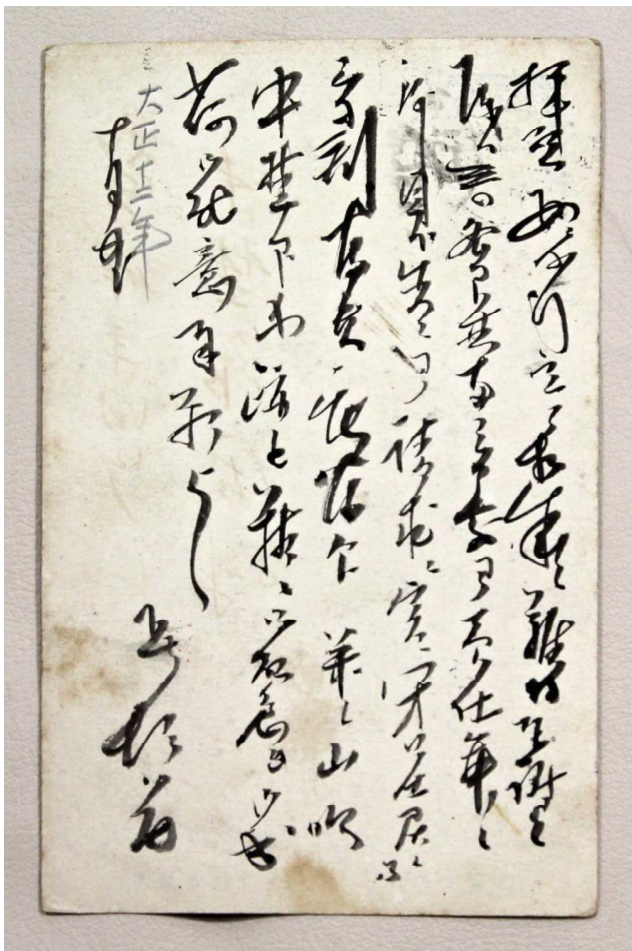
式拾日

東京松竹方

（ミツカン）金剛丸政次郎

拜啓 陳者下船儀、当川入津致シ候ヨリ
 当地ハ船下不足ニ付キ又先船共有候付キ
 実ニ困却仕候間、尚又一日モ早く出帆急ギ
 居リ候へ共、右之次第故、何分御承知被
 下度也、先ハ不取敢ズ御一方申也
 二伸、時節柄御各位様ニハ御身御大切被
 下度也
 初丸も右通り也

匆々



史料10

大正十二年十月二十日・はがき（京橋区富島町・中井半三郎商店↓尾州半田町・中埜酢店）

中埜家文書 No. 16-2-21

尾州半田町

中埜酢店様

尊下

東京市京橋区富島町三番地

酢醤油問屋 〈マル中〉 中井半三郎商店

電信京橋 ■ 五四八番 三四四八番

振替口座東京九六九四番

受付印 大正12.10.23

拝啓、毎度引立ニ相成難有奉謝候

陳ハ〈ミツカン〉各印共、当二日前ヨリ売仕舞ニ

致し、目下先々ヨリノ請求ニ実ニ閉口仕居候而

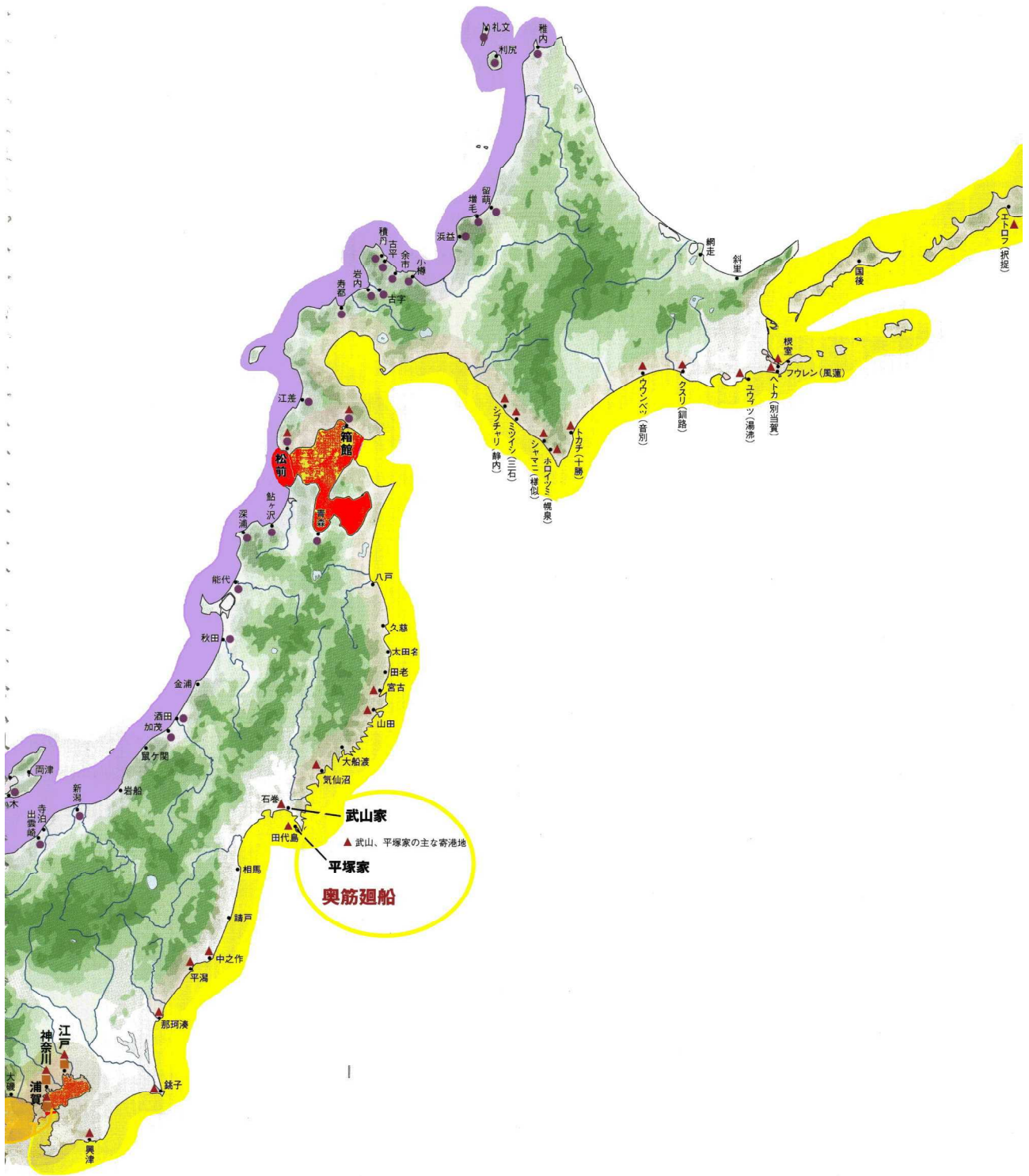
三ツ判・富貴・新富印并ニ山吹

中埜印等跡と精々御取急キ御出

荷御配意奉願上候 恐々頓首

（大正十二年）

十月廿日



斎藤善之「全国市場を支えた船・商人・港」
(『水の文化 25 舟運気分』(ミツカン水の文化センター 2007))

北前船（右近家）の主な積荷
（越前国河野浦・右近家文書より）
蝦夷地（松前・江差・箱館・西蝦夷地）から
北陸・瀬戸内・上方（大坂・兵庫・堺）へ
 ○肥料【鯨・鯨ノ粕・干鰯】
 ○食料【身欠き餅・白子・数の子・干鰯・煎海鼠・昆布】
北陸・瀬戸内・上方から **蝦夷地**へ
 ○衣料【木綿・綿・足袋・草履】
 ○食料【米（中国米・九州米・加賀米・越後米・庄内米）・小豆・塩・砂糖・醤油・味噌・酢・酒・漬物・蒟蒻・干瓢・椎茸・鯉節・素麺・饅頭・茶】
 ○雑貨【蓆・筵・塗物・焼物・金物・紙・傘・線香】
 ○燃料【蠟・油】
 ○建材【畳・産・薄縁・釘・竹・灯笼・洗柿・石灰・ベンガラ】
 ○船具【碇】
 ○その他【葉・煙草・阿波粉・絵馬】

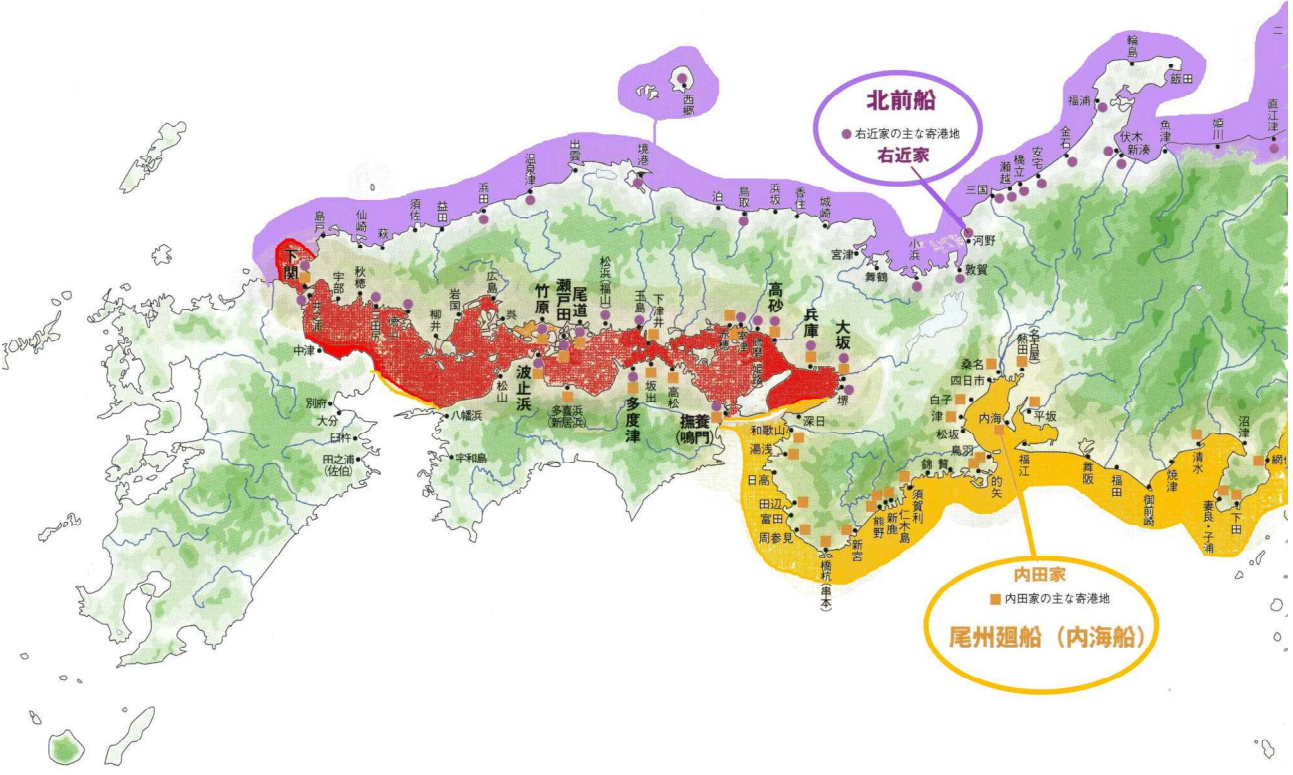
**北前船・尾州廻船・奥筋廻船
 主な積荷**
（歴史学研究会日本史研究会『日本史講座第7巻』東京大学出版会2005）119ページより

尾州廻船（内田家）の主な積荷
（尾張国内海・内田家文書より）
瀬戸内・上方（大坂・兵庫）から
関東（浦賀・神奈川・江戸）へ
 ○食料【西国米・瀬戸内塩・砂糖】
 ○燃料【水油】
 ○肥料【西国糠】
 ○その他【畳表・産・銭】
瀬戸内・上方から
伊勢湾（名古屋・桑名・四日市・津）へ
 ○食料【瀬戸内塩・瀬戸内砂糖・西国大豆・西国麦・松前昆布】
 ○肥料【蝦夷地産鯨ノ粕・西国ノ粕】
 ○その他【紙・藍・煙草】
伊勢湾から **関東**（浦賀・神奈川・江戸）へ
 ○衣料【綿】
 ○食料【米・酒】
 ○肥料【糠】
関東から **瀬戸内・上方・伊勢湾**へ
 ○食料【奥州大豆・関東大豆・小麦】
 ○肥料【奥州ノ粕・奥州干鰯・関東干鰯】
 ○その他【銭・魚油】

奥筋廻船（平塚家）の主な積荷
（陸奥国田代島・平塚家文書より）
蝦夷地（松前・箱館・東蝦夷地）から
東北（石巻）・**関東**（那珂湊・銚子・浦賀・江戸）へ
 ○食料【海産物】【秋味（塩鮭）・塩鱈・塩鰯・数の子・筋子・身欠き餅・昆布】
東北から **蝦夷地**（松前・箱館・東蝦夷地）へ
 ○食料【奥州米カ】
（陸奥国石巻・武山家文書より）
東北（石巻・寒風沢）から **関東**へ
 ○食料【本穀米・免米・相馬米・岩城米・南部米・奥州大豆・小豆・小麦・鯉節】
 ○肥料【鯨ノ粕】
 ○燃料【魚油・菜種】
 ○建材【丸太】
関東から **東北**へ
 ○衣料【木綿・緑綿・絹・紬・縮緬・綿・雪駄】
 ○食料【才田塩・茶（駿州茶）・黒砂糖・白砂糖（讃州三盆白）】
 ○雑貨【陶磁器（瀬戸物）・漆器（会津塗）・提灯・紙（美濃紙）・傘・線香】
 ○燃料【蠟燭】
 ○建材【畳表（近江表）】
 ○船具【織帆・刺帆・櫓・銅板・麻・檜綱・碇・棕呂皮・チャン】
 ○その他【銭・屏風・書籍・錦絵・仏具】

**19世紀における
 北前船、尾州廻船（内海船）、奥筋廻船の航海圏**

『白い国の詩』東北電力2004年5月号、
 歴史学研究会日本史研究会『日本史講座第7巻』東京大学出版会2005をもとに作図



5 全国市場を支えた船・商人・港